

子どもに応じた学習とはどのようなものか

古賀 太一郎

1. 本実践研究の意図

本稿は、「子どもに応じた学習とはどのようなものか。」ということを問題意識にして取り組んできた実践研究である。中央教育審議会（2021年1月）が公表した、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現』の中で「個別最適な学び」の必要性が提起されている。また、「『指導の個別化』と『学習の個性化』を教師視点から整理した概念が『個に応じた指導』であり、この『個に応じた指導』を学習者の視点から整理した概念が『個別最適な学び』である。」と述べられている。これからの学校教育では、「個別最適な学び」の実現を目指していくことが、課題であると考ええる。

しかし、日々の学習を振り返ってみると、児童一人一人に応じた学習を行えているのか疑問を感じる。教師の与えた問題や提示しためあてを中心に学習を進め、どこの子にも同じ量の課題を与えてはいないか。同じ形式での学習形態をとっていないか。同じ進度で学習を進めていないか。このような問いを立て自分の授業を振り返ると「個別最適な学び」の実現にはまだまだ遠い。そこで、子ども一人一人に応じた学習をデザインしていくことを通して、「個別最適な学び」の実現を目指して本実践研究を行った。

2. 単元 本でせかいを広げよう

2.1 児童について

本学級の児童は、6月に「文しょうのちがいを考えよう」という学習を経験している。これは、学習材「サツマイモのそだて方」で時間の順序や事柄の順序を考えて読み、自分の感想をもつことができるようになる学習である。11月には「書きぬいてビーバートレカをつくる」という学習を経験している。これは学習材「ビーバーの大工事」で、大切な言葉や文は何かを考えて、選び出すことができるようになる学習である。これらの学習を通して、児童は時間的な順序や事柄の順序を考えながら読む力や重要な語や文を考えて選び出す力が付いてきている。国語科における単元学習を4月から継続してきており、「問い」を立てることも経験している。しかし、課題の把握や学習の見通すことに課題がある児童も少なくはない。また、学級全体として学習への意欲は高いものの、言語理解に大きな差があると考ええる。

従って、これからの学習でも、単元の中で一人一人が自ら「問い」を立て解決していくことを経験し、さらにそれを支える教師の適切な指導が必要であると考ええる。これまでの学習を通して身に付けた力を活用し、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもつ力を身につけていきたい。

2.2 単元について

(1) 単元の目標

・「あなのやくわり」を題材に「これから考えたらおもしろそうな【?】」を書くことを通して、文章の内容と自分の知識や経験とを結び付けて、感想をもつ力を身に付ける。

(2) 本単元で育成を目指す力

・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもつ力。

(3) 本単元における言語活動

本単元の言語活動として、説明的な文章の内容と自分の知っていることや経験したことを結び付けて書く「これから考えたらおもしろそうな【?】」を位置付けた。

本校で採用されている教科書（東京書籍2年）に記載されていた言語活動は「身近なあなのやくわりについて、調べよう」というものであった。読解力に差のある本学級の児童にとっては、どの子も没頭できる言語活動にはならないと考えた。そこで、本実践の言語活動は、学習材である「あなのやくわり」を読み、内容に対する解釈に差が出ることを前提として、「読んでわかったことやなるほどと感じたことから、これから考えていくとおもしろそうだと思う疑問【?】をつくり、自分の予想や考えを書いていくこと」とした。

「あなのやくわり」は、日常で目にする穴について、それぞれに役割があることが50円玉、コンセントのプラグ、植木鉢、醤油さしの4つの事例を通して書かれている。「はじめ」の問いかけの文章から、「中」に4つの事例、「終わり」はまとめという総括型の構成になっている。どの事例も具体物、役割、その理由の順で説明されている。整った文章構成のため、内容の理解に適している学習材であると考えた。しかし、全員が一律に穴にはそれぞれの役割があることを読み取り、日常の中にある穴の役割目を向けて考えていくことだけが、自分の経験と結び付けて考えることにつながるのかは疑問である。それでは、単なる調べ学習に終わってしまうのではないかと考えた。そこで、本実践においては、知っていても、知らなくてもこれから考えたらおもしろそうという疑問をつくり、そこから自身の経験を結び付けていくという言語活動が有効ではないかと考えた。

(4) 単元で扱う学習材

- ・作品「あなのやくわり」（東京書籍2年）
- ・補助作品「ビーバーの大工事」（東京書籍2年）
- ・モデル文 ・学習計画表 ・思考操作の学習プリント
- ・読解補助用の学習プリント ・問い一覧表

(5) 単元を通した学習課題

このたんげんでは、『知っていることと、むすびつけて読む力』をつけます。

そのために、たいせつなことばや文をえらび、

知っていても知らなくても、「これから考えたらおもしろそうな【?】」をつくります。

(6) 単元の評価規準

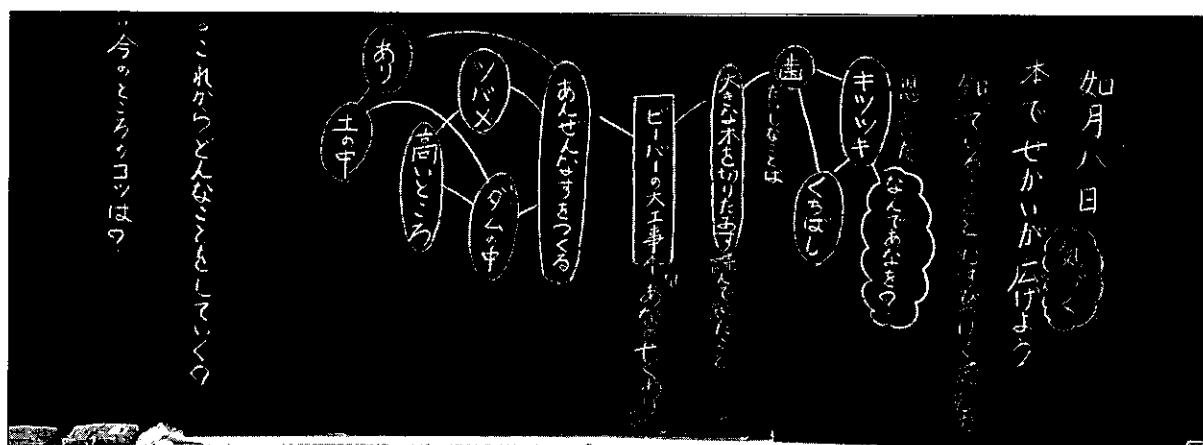
- ・「あなのやくわり」を読んで、自分の知識や経験と結び付けて考えたことを「これから考えたらおもしろそうな【?】」に表している。
- ・身近なことを表す語句の量を増やし、文章の中で使っている。

(7) 単元中および単元前後の指導

本単元では、学習に取り組んでいく上で、学習課題に示した「知っていることと、結び付けて読む力」や「大切な言葉や文を選ぶ」はどのようなことなのかを具体として捉える必要がある。そこで単元びらきの際に「知っていることと、結び付けて読む」と「大切な言葉や文を選ぶ」を体験するよう計画した。実際には、言語活動のモデル文をどのように書いていったのかを追体験していく活動を行った。モデル文の題材には、既習の学習材である「ビーバーの大工事」を使用した。これは、「わかったこと」「これから考えたらおもしろそうな疑問」「疑問から考えたこと」の構成で作成した。題材に既習の学習材を使用することで、文章の内容を理解した上でモデル文の分析ができると考えた。また、モデル文は、①学習材の内容のまとめからつくった疑問に直接的につなげた知識②学習材の具体的な事例から

2.4 板書の例

下の板書は第1時のときのものである。



第1時の板書（知っていることとつなげるを体験する）

3. 本単元の言語活動と評価

3.1 言語活動とその指導

2時目に「まずやってみよう」と「あなのやくわり」を一読した状態で言語活動をさっそく書いてみる時間を設けた。その際に「今の自分の力でどのような作品が作れるかやってみよう。今は難しくても、これからもっといい作品が作れるようになるから大丈夫」という言葉かけを行った。これは、児童自身が今の自分の現在地を知ることとこれからの自分の課題を知ingことを目的とした。更に、教師が児童の読みについて把握するためでもある。一読の段階では、第一事例である「50円玉の穴」について着目した児童が多く、事前の予想通りとりあえず自分のわかるものから書くという傾向を感じられた。

「問い」を立てる際は、「学習課題を達成させるために今の自分が解決しなければならないこと」と伝えた。前時の「まずやってみよう」を想起させ、難しかったこと、分からなかったこと、もっと良くなりそうなことを共有する時間を設けた。その後、どのような問いを立てていけばよいかを全体で共有したところ「【?】とつなげるためには。」「分かったことのどの言葉から【?】をつくるか。」「その文が『なるほど』『そうなんだ』と思うか。」「どの言葉が大切な言葉か。」が問いとして出された。これらの問いを参考に、これから自分が解決していく「私の問い」をそれぞれが立てていった。問いを立てることが難しい児童に対しては、全体で共有した問いと「まずやってみよう」で書いたとりあえずの言語活動を確認しながら、その児童に合った「私の問い」を一緒につくるなど、個別に対応をしていた。

また、問いの一覧表は、問いと振り返りをセットに提示し、だれがどのような問いに取り組んでいるかを分かるようにした。児童には、プリントにして配布はせずに、タブレット端末での閲覧が可能な状態にしていた。

実際に児童が言語活動に取り組んでいる様子は、学習計画表、モデル文、教科書を基に、私の問いの解決のための学習をしていた。学習の見通しが立てられない児童には、前時の振り返りとその場での対話を元に、その子に応じた学習を考えていった。読解の際には、学習に必要な学習材は教室の前方に準備をし、自由に使えるようにした。児童に選択させることで、ノートに内容をまとめる児童、思考操作のシートを使用し線でつなぎながらまとめる児童、読解補助用の学習プリントを使用する児童な

言語活動に関わる指導として、モデル文の「わかったこと」「つなげたこと」「使えそうな言葉」に色を付けておくことで、何が書かれているかを分析するための手立てとした。3パターンそれぞれに「使えそうな言葉」を散りばめ、児童が知っていることと結び付けるための思考の手助けとなうようにした。

教師が作成したモデル文③

	わたしの問い	ふりかえり
	分かったことのどの言葉から「？」をつくるか。	取り組んだことは、なぜの理由を書きました。分かったことのどの言葉から「？」をつくるか。あと、わかったことを広げるやつを書きました。
	どの言葉が大切な言葉か。	プラグの役割とか種類を調べることに取り組んでました。考えたことは、役割とかを考えました。
	「穴には意味がある」を深くしていく。	これだけじゃだめってことがわかりました。それを深くしていったら面白そうです。つながりつなぎやってみると、面白く、よく分かる文になりそうです。自分たちで考えたことを、ていうか、こうたくさん達と自分のやつを教えたりして楽しかったです。その完成した文をみんなに教えてみても面白そうです。
	どの文が「なるほど」「そうなんだ」と思うか。 穴の役割を整理する。	今日したことは、「あなのやくわり」を整理しました。問いは、穴の役割を整理する。何のあなについて書かれていますか。①50円玉のあな、②プラグのあな、③植木鉢のあな、④しょうゆさしのあな、さいごのまとめているかとは、しょうゆさしの終わって最後のことを書きました。次の問いは、どの文が、「なるほど」「そうなんだ」と思うか。
	どの穴とどの穴がつながるか。	どの穴とどの穴がつながるか。という問いに取り組みました。取り組んだことは、何の穴について書かれていますか。
	どの文が「なるほど」「そうなんだ」と思うか。	なるほどそうなんだをやった。
	穴にはどんなやくわりがあるか整理する	最初にこんなところはこうって分かんなかった。なんか分かんなくなったら、まとめてわかって考えたらいいと思う。まとめたら簡単に分ったり、簡単じゃなくて難しい考えもある。
	はじめて知ったをしたらいいと思う。「？」とつなげるには。 分かったことのどの事柄から「？」をつくるか。	初めて知ったことを書いたりするために、初めに集めてみました。次は、もっと集めてみたらいいと思いました。
	どの言葉が大切な言葉か。あなの役割を整理する。	今日、私はゆずちゃんにやり方を教えたり、整理したり、わかったこと「？」を友達と交流して、いや、交流しながら「そうだな」と思った。

問いとふりかえりの一覧

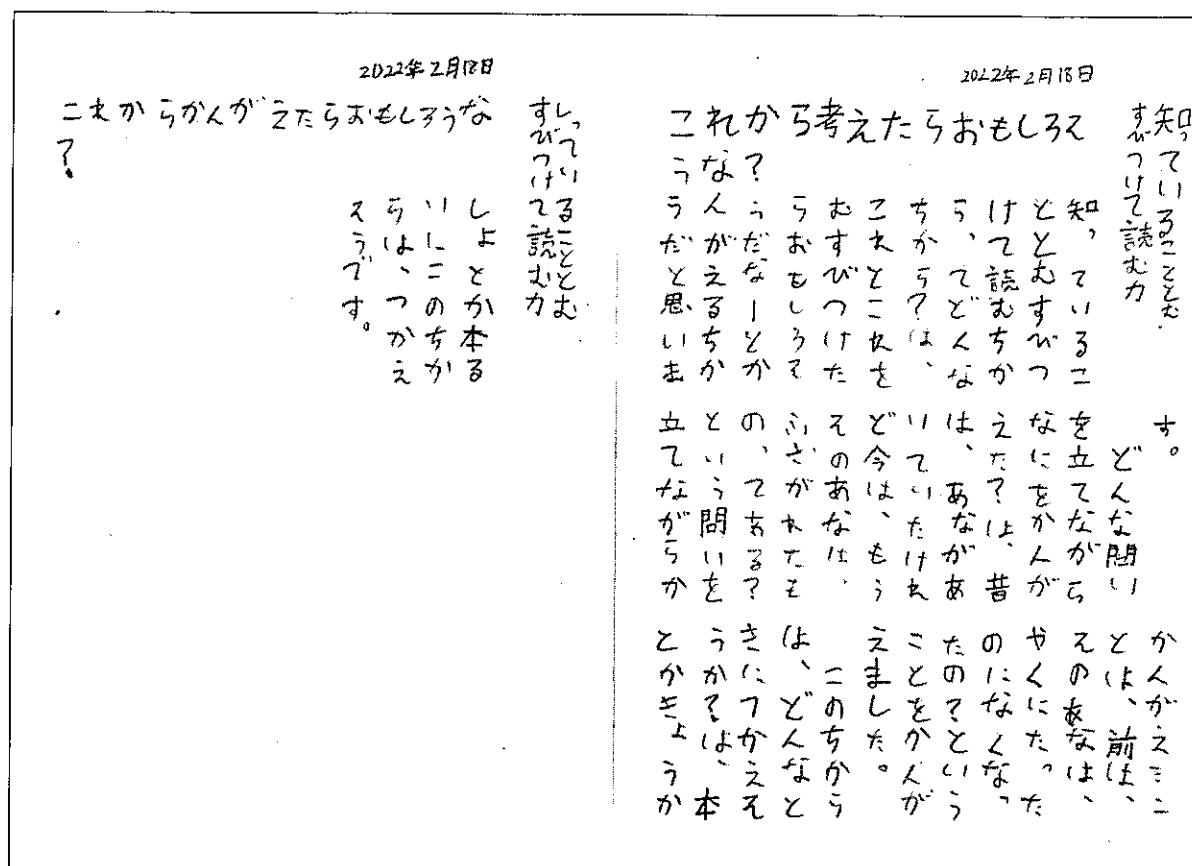
(2) 児童が書いたもの

ら	う	も	く	こ	え	い	て	え	キ	私	を	な	た			わ	こ
で	な	い	う	る	ん	あ	そ	い	ん	の	の	わ	な	あ	た	れ	
す	い	ま	き	じ	ひ	な	の	ま	て	思	う	あ	た	あ	な	し	か
。	と	す	を	は	つ	が	あ	す	つ	い	い	な	し	な	の	の	ら
	ぬ	。	い	め	の	あ	な	。	キ	の	つ	テ	の	は	の	や	ふ
	け	な	れ	ま	さ	り	は		や	さ	り	ナ	あ	き	や	く	え
	な	ぜ	た	す	き	ま	で		ツ	き	た	も	く	よ	く	わ	た
	く	な	り	。	。	す	か		プ	の	こ	も	あ	う	わ	り	ら
	な	ら	す	ち	ぽ	。	。	い		に	あ	と	ち	り	か	り	を
	く	す	り	か	で	あ		は	な	は	ま	は	し	が	読		を
	こ	う	も	さ	と	か	な		あ	て	し	あ	は	わ	で		し
	し	。	の	い	か	い	と		な	す	え	た	る	か			ち
	ま	か	た	の	。	あ	う		か	。	ん	。	あ	か	り	い	そ
	う	は	し	は	た	な	り		あ		い	か	い	ま	ろ		う
	か	り	お	と	は	こ	り		う		う	る	え	じん			な

言語活動で児童Xが書いたもの

ろ	あ	あ	音	た	と	と	は	の	お	い	あ	せ	い	か	り	ろ	な	と	ニ	て	なし	ハ	ふ	た	か	あ	つ	り	あ				
い	う	な	な	は	の	上	と	な	は	人	か	い	音	な	て	て	り	つ	か	が	ら	テ	さ	け	ぼ	り	なし	を	な	あ			
と	い	は	は		と	く	く	と	と	と	て	は	い	う	か	つ	も	こ	あ	人	あ	ベ	ナ	が	れ	く	ま	を	出	す	な		
思	フ	。	。	。	す	な	ニ	て	気	づ	さ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	
い	も	ま	つ	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
ま	の	だ	か	か		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
す	か	あ	あ	あ		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
。	ん	る	な	。		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
か	も	い	た			。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
え	の	け	け			。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
ろ	と	と				。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
と	と	今	も			。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
お	あ	も	う			。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
も	る	そ	う			。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
し	？	の	の			。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		

言語活動で児童Yが書いたもの



単元の振り返りで児童Yが書いたもの

3.2 評価

評価規準にもとづき、評価を行った。学習の履歴と共に一例として、児童Xと児童Yを取り上げる。

(1) 児童X

児童Xの問いと振り返り

時数	問い	振り返り
4時目	穴にはどんなやくわりがあるか整理する	最初にこんなところはこうって分かんなかった。なんか分かんなくなったら、まとめてわけて考えたらいと思う。まとめたら簡単に分ったり、簡単じゃなくて難しい考えもある。
5時目	穴にはどんなやくわりがあるか考える。	どのような説明の仕方を書いているか、確かめましょうで植木鉢のことにして書いてみました。50円玉のことに書いてみた。そしたらなんか整理がきっちりして、後でどんどん見えてきそう。
6時目	穴にはどんなやくわりがあるか整理する。	教科書に書いてないあなのやくわりを見つけない。あなのやくわりを読んで、そこに書いてあるのが全部同じじゃなかったから、いろんなことがわかった。

児童Xは、学習内容の定着が難しいが、学習に対して積極的な児童である。2時目に「あなのやくわり」を一読した時点では、「穴は役に立っていることがわかった。なぜ穴は役に立っているか。」という感想を記述していた。大体を捉えることはできていても、事例を通した内容の理解には達していな

かった。

学習課題の解決に必要なことはまず何かを児童Xと一緒に考えると「穴は役に立っていることは分かっていたけど、どんな役割があるかを知りたい」ということが出てきた。そこで、私の問いを「穴にはどんなやくわりがあるか整理する」という問いを立てることができた。「まずは、『あなのやくわり』に書いてあることを整理していくと、どんな役割があるかを知ることができそうだね。」と言葉かけを行い、読解補助用の学習プリントを手渡した。児童Xは学習プリント①を使い、「あなのやくわり」の事例を端的にまとめていった。振り返りの「まとめて分けて考えたらいいいと思う。」という記述から、文章の事例ごとに分けて整理していくことが読解の手がかりとなっていることが伝わってくる。

事例の整理を終えた児童Xは、次に「穴にはどんな役割があるか考える」という問いを立てた。教科書を何度も読み返していたが、なかなか解決には至らない様子であった。その様子から、事例についての具体物、役割、その理由の整理がうまく行えていないことを見取ることができた。そこで、事例ごとに書かれていることを矢印でつないでいく読解用補助学習プリント②を手渡した。穴埋め形式になっており、読解に不安のある児童Xにとっては思考が焦点化され適した手立てであったと推測される。振り返りの「なんか整理がきっちりして、後でどんどん見えてきそう」という記述からも、児童Xが今後の学習へ見通しをもっていることを見取ることができる。

6時目の振り返りには「教科書に書いてないあなのやくわりを見つけない。あなのやくわりを読んで、そこに書いてあるのが全部同じじゃなかったから、いろいろなことがわかった。」と記述しており、「わかったこと」から「これから考えたい疑問」へと自然につなげることができていた。

「これから考えたらおもしろそうな【?】」には、「いろいろなあなのやくわりがわかりました。わたしはきょうかしよにかいてないあなのやくわりはあるのか?というハテナをもちました」と記述しており、わかったことから疑問をつくり、鉛筆キャップの穴の役割へとつなげていた。

以上のことから、児童Xは評価規準の「『あなのやくわり』を読んで、自分の知識や経験と結び付けて考えたことをこれから考えたらおもしろそうな【?】」に表している。」について概ね評価することができる。

(2) 児童Y

児童Yの問いと振り返り

時数	問い	振り返り
4時目	あなのやくわりには何が書いてあるか。	今日取り組んだことは、ビーバーのときの遠い近いに取り組んで頑張りました。今日考えたことは、昔あながあったけど、今は、もうその穴はふさがっているものはある?それが考えたいことです。
5時目	昔あながあったけど、今は、もうその穴はふさがっているものはある?	今日の取り組んだ「?」は、昔は穴があいていたけれども今はその穴がふさがったものってあるという「?」に取り組みました。考えたことは、炭火式は2つの穴、一つの穴は、空気を入れて温度を上げるための穴です。もう一つの穴は、けむりとかを出すための穴です。なぜ、アイロンの穴がなくなったのかを明日まとめて書きます。
6時目	昔あながあったけど	今日の取り組んだ「?」は、前回取り組んだ昔は穴があいていた

	ど、今は、もうその穴はふさがっているものはある？	けれども今はその穴がふさがったものってあるという「？」に取り組みました。考えたことは、炭火式は2つの穴があって、一つは、空気とりこむ穴で温度を上げるための穴です。もう一つの穴は、けむりとかを出すための穴です。あした取り組む「？」は、昔は、穴があったけど今は、その穴がふさがれたものってある？という？に取り組みます。それが終わって時間が余ったらコンセントをやります。
--	--------------------------	--

児童Yは、学習内容に対して、じっくりと考えることが多い。反面、正解主義的なところがあり、自分の考えに対して自信をもつことができない児童である。「あなのやくわり」を一読した時点で「穴にはいろいろなやくわりがある」ことや、それを伝えるための事例について読み取ることが出来ていた。4時目の振り返りに「昔あながあったけど、今は、もうその穴はふさがれているものはある？」という記述が見られた。これは、50円玉の穴は昔はなかったけれど、100円玉と区別をするためにできたという内容から、時間の経過によって穴が変化したことを関連付けながら考えたと推測される。児童Yに「このハテナはどうやって解決しようか。」と言葉かけを行ったところ、少し考えた後に「思い付きません。」と答えた。そこで、「実際に調べてみようか。」とタブレットPCを活用し、穴の変化について一緒に調べることにした。参考になる記述を探し出し提供することで、児童Yは自分の問いの解決に取り組んでいった。

「これから考えたらおもしろそうな【？】」には、「なぜあながあいているかという、けむりを出したりさわったときにくべつしたり引っかけたりするためにあなをあけたということがよくわかりました。ぼくは、『昔は、あながあいていたけれど今は、もうそのあなは、ふさがれたものってある？』というハテナを思い付きました。」と記述しており、読み取ったことから疑問をつくっていることがわかる。更に、調べたことをもとにアイロンの今と昔を比べ、役割が必要なくなったから穴がなくなったという自分の考えを導きだすことが出来ている。

単元の振り返りにおいては、本単元において身に付けた力に関して、「これとこれをむすびつけたらおもしろそうだなーと考える力だと思います。」と記述している。さらに、身に付けた力の活用場面に関して、「本とか教科書とか本屋にこの力はつかえそう。」と記述をしている。身に付けた力に関して、自分の考えを持つことが出来ており学習に対する有用感を持っていることが推測される。

以上のことから、児童Yは評価規準の「『あなのやくわり』を読んで、自分の知識や経験と結び付けて考えたことをこれから考えたらおもしろそうな【？】」に表している。」について十分に評価することができる。

4. 考察

「子どもに応じた学習とはどのようなものか。」にかかわって

本実践は、「子どもに応じた学習とはどのようなものか。」ということの問題意識にして単元作りを行った。実際、児童一人ひとりが学習課題の達成に向け私の問いを立てて学んでいく単元デザインは、その子の学習を保証することへ効果があったと考える。実際に「これから考えたらおもしろそうな【？】」には、全員の児童が取り組むことができ、文章の内容と自分の経験とを結び付けて感想をもつことができていた。3.2 評価で取り上げた児童Xや児童Yのように「わかったこと」と「つなげたこと」は、児童の読みの実態に応じて様々であった。例えば、「50円玉には、さわって区別するための穴が

あいている」ということから「他に同じ役割の穴はあるのか」という疑問につなげる児童。「穴には役割がある」ということから「穴には意味があるから例えば形にも意味があるのか」という疑問につなげる児童。「穴の役割はないとこまる」ということから「それとは逆になくても困らない穴は」という疑問につなげ、「考えてみるとどの穴にも意味があった。」と結論づける児童。このように、文章に書かれている内容の具体から、そのまま自分の知っていることへつなげる児童もいれば、書かれている内容を抽象化して、自分の知っていることへつなげる児童もいた。このことから、児童はそれぞれの読みの解釈をもとに、知っていることとつなげることができたと考える。さらに、ノートや言語活動中の対話、仕上がった言語活動から分析すると、どの児童も一読した状態でさっそく書いてみた言語活動時よりも「わかったこと」への理解が深まっていることを見取ることができた。

本実践において教師が最も意識したことは、児童の学びをどのように支えるかである。45分という限られた時間の中で、児童一人ひとりの学びに寄り添うことはやはり難しい。この課題を解決させるために効果的であったことは、単元構想時に児童一人ひとりの読みを想像すること、毎時時間の児童の振り返りを分析すること、授業後に児童の学びの様子や教師の行った手立てを記録していくことであった。教師が見取る児童一人ひとりの今を常に更新していくことである。これらのことが、限られた時間の中で一人ひとりの児童の学びを支えるために必要なことであると考えられる。

子どもに応じた学習にするための教師の手立てをまとめると以下ようになる。

- ・学習材の分析を教師の読みから出発するのではなく、児童一人一人の読みを想像しながら、そこへ教師の分析を重ねていくこと。
- ・児童の学びの見取りと教師の手立てを記録し、児童の今を更新していくこと。
- ・ノートなどの学習の記録や振り返りを丁寧に読み、その児童の学びの今を捉えること。
- ・「問い」やその解決のために、児童との対話を重ねること。さらに、事前の教師の見取りと児童の実態のずれを修正していくこと。
- ・児童の考えが多様に表現できる幅のある言語活動を設定すること。

5. 展望

5.1 本単元の成果

本実践研究は、「子どもに応じた学習とはどのようなものか。」ということの問題意識にして取り組んできたものである。3.2でも評価と学習履歴について記述したが、本単元ではそれぞれの児童が自分に合った学習に取り組む姿を見ることができた。本単元を通して、児童が今の自分の最大限の力を出し切って学んでいくことを目指した。特に効果的であったと感じる手立てとして、学習材の分析を児童の一人一人の視点で行っていくこと、児童の学びの様子や教師の手立てを記録し教師の想像する児童の今を更新していくことである。これらのことを重ねていくことで、学習中での児童の困り感や引っ掛かりに適切な助言や指導を行うことができた。さらに、1時間ぶつ切りの学習ではなく、単元という時間的幅を持たせることが重要であると考えられる。児童一人ひとりの言語理解に差があるからこそ、一人ひとりの時間で学習していくことが大変価値高いことであると考えられる。

2月の単元ではあったが、まだまだ自力で「私の問い」を立てることに困難さをもつ児童が数名いた。教師が対話を重ねながら、その児童に必要な「私の問い」はどんな問いであるかを一緒に考えていくことは必要である。児童自身が何に困っているのか、どんなことを知りたいのか、何が必要なのかを丁寧に見通していくことで、教師と共に立てた問いが「私の問い」になっていく。このような学習を粘り強く重ねていくことで、教師の手助けがなくとも「私の問い」を立て解決していこうとする自立した

学習者になっていくのであろうと考える。

今回の学習指導はほんの一例にすぎない。学習指導には改善の余地は多分にあることは間違いない。しかし、本実践において最も重要なことは、教師が児童自身の学びを想像することにある。教師の教える内容は必要である。しかし、それが一方的な押し付けになってはいけない。今、目の前の児童が何を見ているのか、何を考えているのかを丁寧に見取っていくことが重要性である。そのためにも、日々の生活、学習の中で児童一人ひとりを見ること、声を聞くこと、声になってはいない思いを感じ取れることを怠らないようにしていきたい。

5.2 今後の実践に向けての課題

5.1でも述べた通り、今回の学習指導はほんの一例にすぎない。児童の見取り、学習指導の工夫については改善の余地は多分にあることは間違いない。児童の见ている世界をいくら想像しても、そこには必ずずれが生じるであろう。だからこそ、日々の見取りを丁寧にし、児童の见ている世界を想像しつづける教師でありたい。

児童の教師の都合で学習を一方的に進めている場面や課題を一方的に示している場面もまだまだある。子どもに応じた学習を考えていく上で、学習が自分事になっていくことは必要なことである。自然に児童が学びたいと思える、学ぼうとするような時間を創っていきたい。そのために、児童の学びの出発点である「学びの立ち上がり」を教師がどのように誘うか。または、支えることができるか。子どもたちが、学習課題を私の課題にするための教師の仕事を今後の自身の課題として、さらに研究を進めていきたい。

(佐賀市立循誘小学校教諭)